

明治時代、日本の郵便制度がまだ黎明期だった頃、日時計が重要な役割を果たしていたそうです。郵便局の本局には、窓際に精密な日時計が設置されていました。機械式の時計もあったのですが、日時計のほうが信頼性が高かったのでしょう。現在の郵便局の「消印」は6時間刻みで「引受時刻」が刻印されています。「0-6」「6-12」「12-18」「18-24」の4区分です。しかしかつては1時間刻みで刻印されていました。郵便局によって「現在時刻」は非常に重要だったわけです。そのことは、集配で外を回る配達員も同じでした。「腕時計」などなかった時代、配達員は常に「小型の日時計」を携帯していたそうです。

これにヒントを得て、「キーホルダー型の日時計」を作ってみました。以前、画用紙でつくった日時計の型紙と同じ構造です。今回は3Dプリンターで作りました。直径は4cmでキーチェーンがついています。昼間に試してみましたが、まあまあ一応使えるものかな、と思いました。日時計の面白いところは、「方位がわかれば時刻がわかる」「時刻がわかれば方位がわかる」という点でしょう。もしかしたら、登山に持っていくと、いざという時に役立つかも知れませんね。

